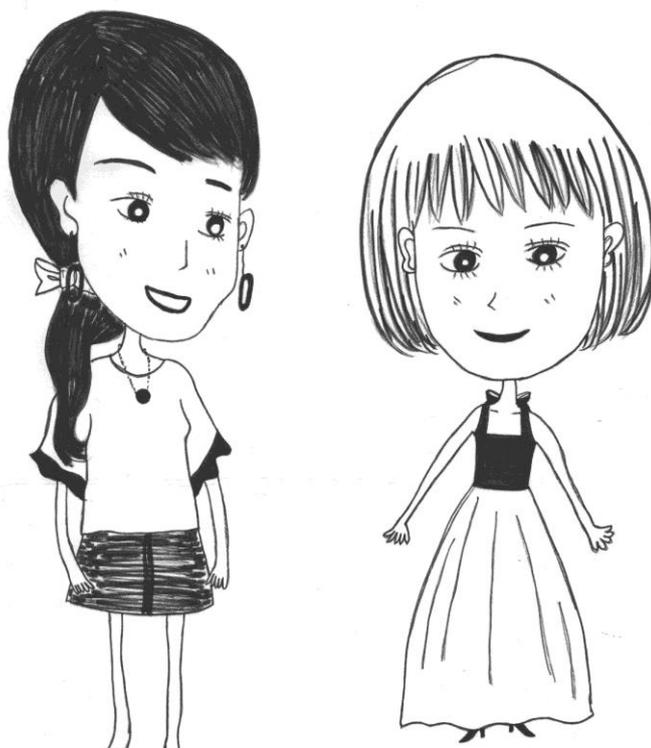


自信がなくても自分らしくできる

ピアノ講師1年生のための はんなり流☆ ピアノの教え方

第6章 レッスン2カ月目～半年



スカラー

■はじめに

この章ではレッスン 2 カ月目～半年の指導内容に絞って作りました。

レッスンを始めてから 1 カ月経ったということは、導入レッスンが終わる 1 つの目安でもあります。

レッスン 2 カ月目以降では、**導入レッスンから基本のレッスンに移る大事な時期**となります。大きく変わるところは、テキストが増えるということと、ソルフェージュの勉強を始めるところです。

詳しくは本文でお伝えしていきますが、「遊び」という部分から「学び」みたいなレッスンにしていく感じです。ですが、子どもとの接し方は、今まで通り何も変わらないので、安心してレッスンをしてもらえたらと思います。

大事なのは、その子ができなかったときに、なぜできなかったのか？ どういう方法でやればできるようになるのか？ など、**「なぜ？なんで？」**を自問自答しながらやっていくと、**どん**
どんあなたの指導の引き出しが増えていくと思います(*^-^*)

あとは、子どもが前回よりも成長していることを信じて根気よく教えてあげてくださいね。それが「生徒 1 人 1 人の能力に合ったレッスンをする」ということなのです(*^-^*)

では順番に見ていきましょう！

目次

■はじめに	2
■目次	3
■レッスン 2 カ月目～半年のスケジュールはこちら.....	5
導入のレッスンと基本のレッスンの違い.....	6
■ Part1 ピアノの弾き方指導実践 (2 カ月目～半年)	7
必要な教材.....	7
2 カ月目のポイント.....	8
3 カ月目～半年のポイント	11
■新しいテキストについて.....	14
「ピアノひけるよ！ジュニア①」	14
「バーナムピアノテクニクミニブック」	17
■ Part2 音符の読み方指導実践 (2 カ月目～半年)	20
必要な道具.....	20
最終音読みチェック.....	21
音のアルファベットを覚える.....	22
■ Part3 リズムのたたき方指導実践 (2 カ月目～半年)	23
必要な道具.....	23
付点のリズム.....	24
シンコペーションのリズム	25
■「5 才のリズムとソルフエージュ」について.....	26
実際の使い方	27
リズム編	27
ソルフエージュ編	30

■ おわりに.....	32
■ 規約.....	33

■ レッスン2カ月目～半年のスケジュールはこちら

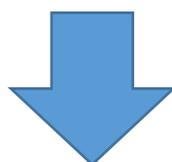
前回の第5章「レッスン4回目の内容」はわかっていたでしょうか？

次はレッスン2カ月目～半年の内容に入っていきますよ(^-^)

2カ月目以降のレッスンは、導入のレッスンから基本のレッスンに移れるようにしていきます。

導入のレッスン

項目	時間
①ピアノを弾く (テキスト1冊)	25分
②音符を読む	5分
③リズムをたたく	5分



基本のレッスン

項目	時間
①ピアノを弾く (テキスト3冊)	25分
②リズム&ソルフェージュ	10分

導入のレッスンと基本のレッスンの違い

まず1番の違いは、今までは「バスティン プリマーA」1冊だけで進めていましたが、新たに2冊を投入して、計3冊のテキストで進めていくことです。テキストというのは1冊だけでは力がつきにくいものです。メイン教材（バスティン）があって、それを補うサブ教材とテクニック教材が必要になってきます（教材についてはp14でお話します）。

2つ目の違いとしては、今まで「音符を読む」、「リズムをたたく」を個別にやっていましたが、それをやめて「5才のリズムとソルフェージュ」という本をやっていきます。

導入のレッスン教材



基本のレッスン教材



Part1 ピアノの弾き方指導実践(2カ月目～半年)

2カ月目の始めは、引き続き「プリマーA」だけで進めていき、宿題を3曲ずつやってきてもらいます（進度がゆっくりの生徒の場合は、2曲のままでも大丈夫です）。

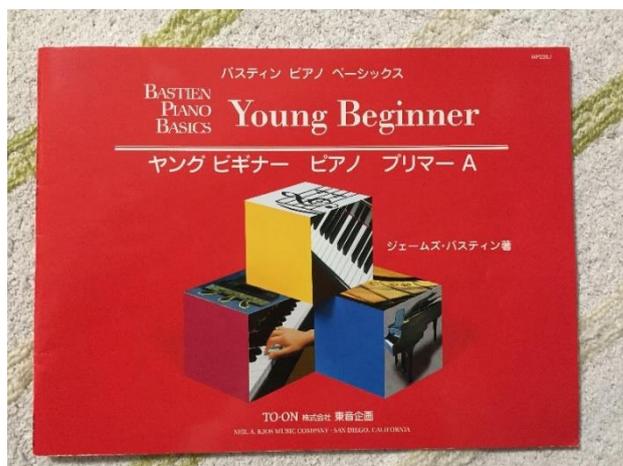
そして「プリマーA」p28に入るタイミングで、「ピアノひけるよ！ジュニア①」と「バーナムピアノテクニックミニブック」（以下「バーナムミニブック」）の計3冊でやっていきます（進度がゆっくりの生徒の場合は、プリマーAが1冊終わってからでも大丈夫です）。

テキストが3冊になったら「プリマーA」の宿題は1曲にして、各テキストから1曲ずつ宿題に出していくと良いでしょう（「バーナムミニブック」の本は1ページずつ出す）。

「プリマーA」が終わる目安ですが、半年ほどになります（進度が早い子で4カ月、ゆっくりの子ですと8カ月かかることもあります）。

必要な教材

「バスティン プリマーA」



2カ月目のポイント

p18「マクドナルドおじさん」は、大譜表（ト音記号とヘ音記号が両方載っている楽譜）が出てきます。

1つのメロディーを左右で弾き分ける練習なので、始めは少し手間取るかもしれません。

●子どもへの説明の仕方

・「上の段は右手で、下の段は左手で弾こうね。始めは左手から弾くんだよ」と言います。

楽譜の見方がよくわかってない子には、左手で弾く音にチェックをさせます。

●子どもへの説明の仕方

・「左手で弾く音符にマルをつけてみようね」と言います。

また「マクドナルドおじさん」は初めてリピート記号（p8の1枚目の写真中央）が出てくるので、「リピート記号は繰り返すという意味ね。ここまで弾いたら一番最初に戻って弾くんだよ」と説明をしてあげましょう。

p20「どうぶつえんで」は、初めて付点2分音符が出てきます。

●子どもへの説明の仕方

・「2分音符に小さなチョボがついている音符を付点2分音符っていうよ。3拍伸ばすんだよ。たたき方はターアーアンっていうよ」と伝えます。



※同じタイミングで音楽ノートに今日新しく習った音符を書いてあげます。

※p27「サーカス」で2カ月目が終わりますが、宿題のやり直し等も考えると進み具合はこの限りではありません。

宿題の量と説明の仕方について

今まで「プリマーA」は2曲を宿題に出していましたが、2カ月目以降は3曲ずつやってきてもらいましょう。また子どもへは、「①音の名前を言いながら弾く②リズムを言いながら

弾く③歌いながら弾く、の順番で弾いてくるんだよ」と言うだけで、楽譜の説明はほぼしません。もちろん新しい音や音符が出てきたときは説明しますが、以前に習っている事柄であれば説明を省きます。

今までのように「これは3拍伸ばすんだよね。左手から弾くんだよ～」などと丁寧にやっていると、子どもが先生に頼りっきりになってしまい自分の力で楽譜を読んでこないようになるからです（レッスン時間にも限りがあるためそこまで丁寧にやられていけないという理由もあるのですが・・・）。

2カ月目以降は、親切すぎないように、少々雑に教えていくこともポイントです。

3 カ月目～半年のポイント

p28「あがって さがって」からいよいよ5線が出てきます。今までのレッスンでさんざん音符の読み方を習ってきているので、このページで初めて5線が出てきたとしても子どもはすでに音符が読めています（この段階で読めていないとまずいです・・・!）。

●子どもへの説明の仕方

・「音符にたくさん横の線がついているね。もう音符の読み方はわかっているよね。まずは音を読んでから弾いてみよう」と言います。

28
となりのおと(ステップ)

ひとつづつ あがる
ひとつづつ さがる

ミドルC ポジション

れんしゅうのしかた
1. おとなのまま新しいながらひきましょう。
2. リズムをいながらひきましょう。
3. うたをうたいながらひきましょう。
このほんのほかのぶぶんも、うえのしじにしががってれんしゅうしましょう。

Stepping Up and Down
あがって さがって

あがって さがる
Step up, up. Step down, down.

先生へここに歌った音をバスティンミュージックフラッシュカードでの読みかきで下さい。新しい音がきたら同様して下さい。
WP230J

The image shows a page from a music book. At the top left, it says '28' and 'となりのおと(ステップ)'. There are two musical staves: the first is labeled 'ひとつづつ あがる' and the second 'ひとつづつ さがる'. Below these is a piano keyboard diagram labeled 'ミドルC ポジション' with notes C, D, E marked. To the right of the keyboard is a yellow box with instructions for 'れんしゅうのしかた' (practice method). The main part of the page features the title 'Stepping Up and Down' and the song 'あがって さがって' with musical notation and lyrics. At the bottom, there are instructions for the teacher and a small code 'WP230J'. On the right side of the page, there is a colorful illustration of a staircase with two children, one going up and one going down.

※「あがって さがって」に入る（5線が出てくる）タイミングで、新しい2冊を投入し、計3冊でテキストを進めていきます（詳しくはp14 新しいテキストについて）でお伝えします）。

※ p33 までは楽譜が比較的に簡単なので、私の場合は2曲ずつやってきてもらいます。

p34「よるのふくろう」はへ音記号の練習です。この辺りは左手ばかりの練習なので、少し時間がかかるかもしれません。1回で合格できない場合も出てくるでしょう。

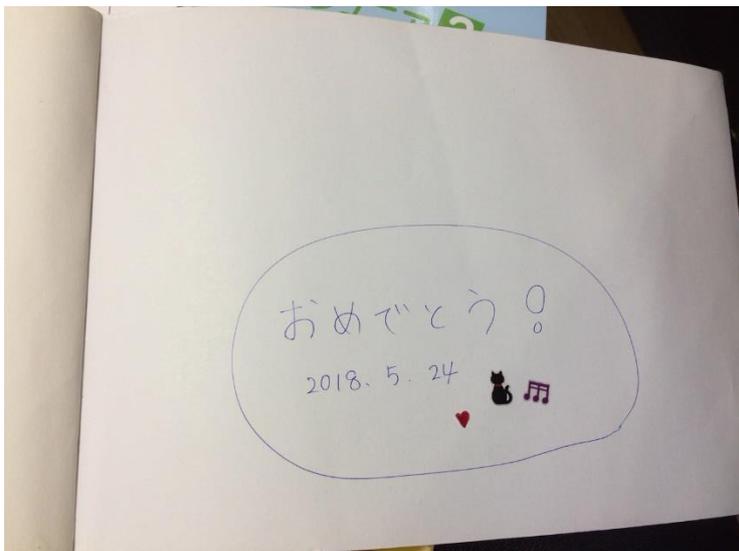
●子どもへの説明の仕方

・「左手は少し弾きにくいけれど、しっかり指に力を入れて弾いていこうね」と言います。

曲に伴奏がついているものに関しては、先生が伴奏を弾いてあげて一緒にピアノを弾く楽しさを味わわせてあげてくださいね。

p44「聖ニコラスおじいさん」が終わればこの本は終了です！

ちなみに私は本が1冊終了したときは、テキストの最後のページに、合格した日付を書いてあげるようにしています。



*** 曲が合格する基準 ***

この時期での合格の基準は、とにかく **止まらないこととミスタッチをしない** ことです。

「最初から間違えずに弾けたら合格ね!」とか、(どうしてもミスタッチをしてしまう子には)「最初から止まらずに弾けたら合格ね!」と言います。またある程度のテンポ感も必要になってくるので、あまりにもゆっくり弾いている子には、「もう少し速く弾いてこよう!」と言ってやり直しをしてもらった場合もあります。曲の感じがつかめていない子には模範演奏をしてあげましょう。

これで「プリマーA」が終わりました。**目安ですがピアノを始めて半年が経っている頃です。**

本が1冊終わると、先生もちよっぴりうれしい気持ちになると思います(*^^*)。

「プリマーA」が終わると「オルガンピアノの本」に移っていきます(第7章でお話します)。

次は、新しく投入する2冊の本についてお話ししていきますね(^-^)

■新しいテキストについて

新しく投入する2冊は、「ピアノひけるよ！ジュニア①」と「バーナムミニブック」です。

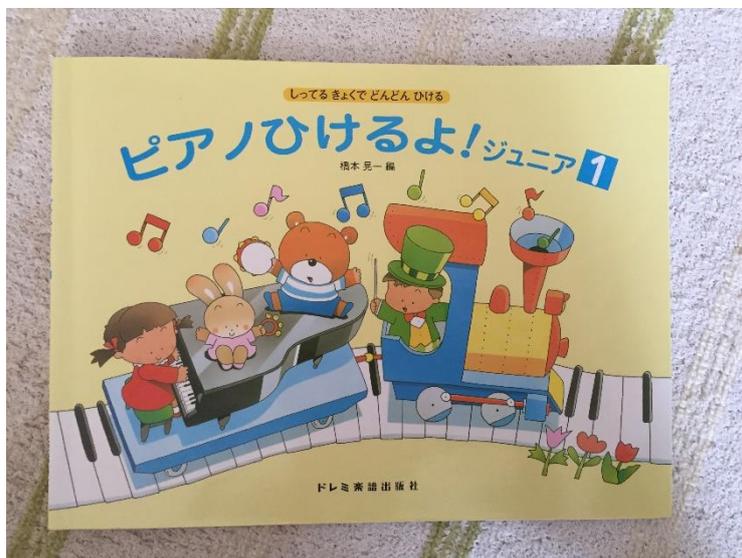
「ピアノひけるよ！ジュニア①」はサブ教材として、「バーナムミニブック」はテクニック教材として使っていきます。

まず1冊目は「ピアノひけるよ！ジュニア①」です。

「ピアノひけるよ！ジュニア①」

「ピアノひけるよ！ジュニア①」とは、「きらきら星」、「アルプスいちまんじゃく」など、子どもたちが大好きな曲がたくさん載っている本です。難易度は「プリマーA」とほぼ同じくらいで、うちの生徒に一番人気の教材です。

「ピアノひけるよ！ジュニア①」



教材は、1巻2巻と順番に進み、シリーズが終われば「ブルグミュラー」と同等のレベルがついたことになります。

毎回1曲ずつ進んでいくと、4カ月ほどで終了することができます（結構簡単です！）。

では、「ピアノひけるよジュニア①」の中身を見ていきましょう(^-^)

p18「いちばんぼし」から始めていきます（プリマーAである程度弾いているので、途中から始めます）。

●子どもへの説明の仕方

・「2拍伸ばすところに気をつけて弾いてみようね。この曲も①音の名前を言いながら弾く②リズムを言いながら弾く③歌詞で歌いながら弾く、で弾いてみようね」と言います。

※これ以降も同様に、3種類のやり方で弾いてもらいましょう

p30「きらきら星」が人気です。生徒が右側の楽譜です。左側の細かい音符は先生の伴奏です。この本はすべて生徒と連弾をしましょう。連弾にすることで間違えても止まらない訓練を兼ねることができます。

p44「とんぼのめがね」で初めて「タイ」が出てきます。

とんぼのめがね 植崎三三郎作曲 平井康三郎作詞

▶タイ ——— が ついてい る と き は、1 つめ の お と を ひいたら、2 つめ の お と は ひ き な お さ な い で、そ の ま ま の び し ま す。

(ばんぞうと あわせる と き は、1 オクターブ たか く)

●子どもへの説明の仕方

・「同じ音をつないだ線のことをタイっていうんだよ。2つ目の音は弾き直さないでそのまま伸ばすよ。だからこの部分は4拍と4拍を足して8拍伸ばすんだね」と言います。

お そ ら を と ん だ か ら

だ か ら

タイ

「ピアノひけるよ！ジュニア①」はとにかく弾きやすく難易度が低いのが特徴です。

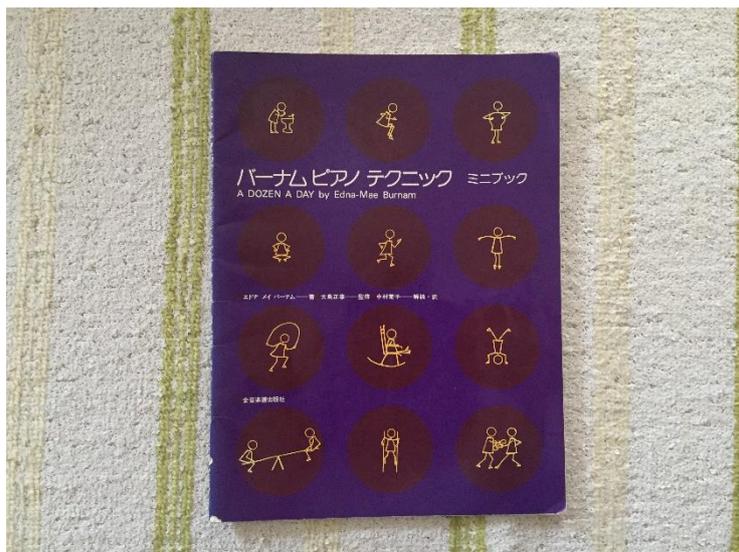
1巻が終わったら順番に2巻へ移っていきましょう！

では、続いて「バーナムミニブック」を見ていきましょう。

「バーナムピアノテクニックミニブック」

「バーナムミニブック」は、指のテクニック本です。1本1本の指を独立させる練習にもってこいです！

「バーナムミニブック」



この本は4小節だけの短い曲が載っていて、楽譜に書かれている人形の動きと手の動きを関連付けながら弾くのがおもしろいです♪ただ、デメリットがあって、生徒によっては（絵が苦手なのか！？）この本が嫌いな子がいます・・・(;´▽`)

教材は、ミニブック・導入書・1巻・・・と進んで4巻まで行けば「ハノン」に移ることができます。

1冊が終わる目安ですが、短い曲なのですが曲数が多いので半年はかかると思います。

では、「バーナムミニブック」の中身を見ていきましょう(^-^)

※この本は毎回3曲ずつ進んでいきます（※1ページずつ進む計算です）

この本は最初のページ（p10）から進んでいきます。「プリマーA」を弾いているのでこの辺りは初見でも弾けると思います。



p12「深呼吸」では早くも和音が出てきます。

●子どもへの説明の仕方

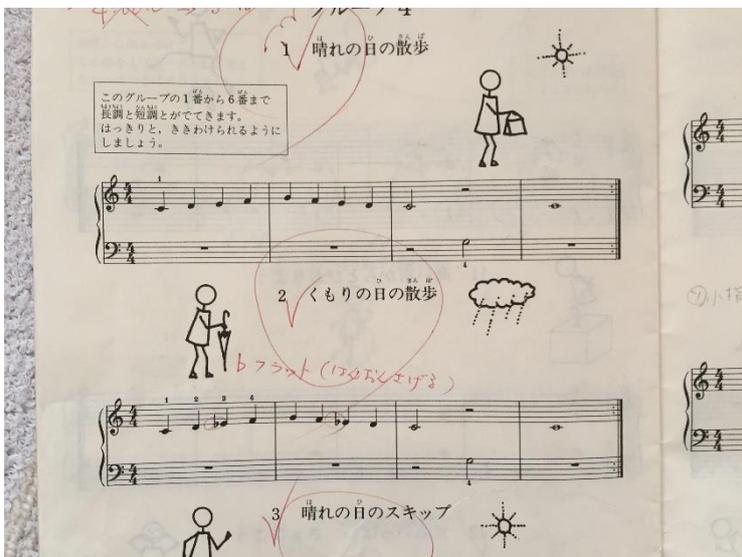
・「和音っていうのは、2つ以上の音を一緒に弾くことなんだよ。ドの音とミの音を一緒に弾いてみようね」と言います。



p22「くもりの日の散歩」では、b（フラット）を弾きます。

●子どもへの説明の仕方

・「このマークはフラットっていうんだよ。音を半音下げて弾こうね。鍵盤の場所はここね」と言います。



この本の良いところは、早い段階から和音やb（フラット）が出てくるところです。またスタッカートや8分音符で弾いたりもするので、この1冊で幅広く学べます。

「ピアノひけるよ！ジュニア①」も「バーナムミニブック」も、音符が真ん中の「ド」を中心にして左右に広がっていくので、「プリマーA」との相性が良くわかりやすいです！

この3冊でレッスンを進めていけば、子どもは途中で挫折することもないと思います。

これで2冊の本の紹介は終わりです。次は音符の読み方についてやっていきましょう！

Part2 音符の読み方指導実践（2カ月目～半年）

2カ月目に入る時点では、すでにト音記号「ドレミファソ」と、ヘ音記号「ドシラソファ」の10音がきっちり覚えられていることが大事です。

2カ月目では、これまでのレッスンの復習のために、音符のカードを使って「最終音読みチェック」をします。

この音読みチェックがスラスラできたら、「5才のリズムとソルフェージュ」という本に移っていきます（まだ音読みが怪しい場合は、音楽ノートに書かせたり、レッスン1カ月間でやったことを繰り返し復習させてください）。

必要な道具



・「ポケモン おんぷカード」

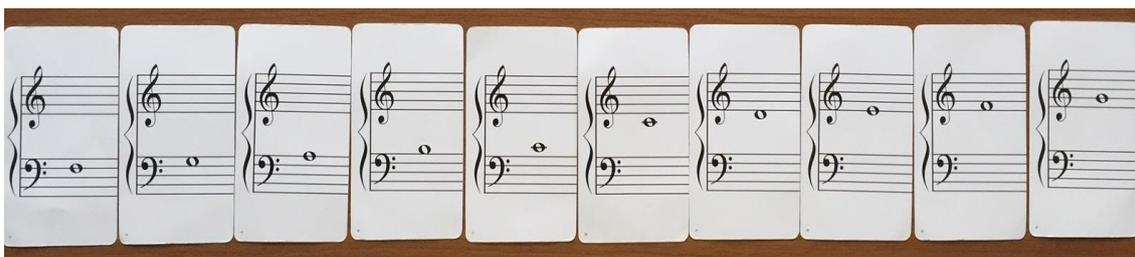
音符を教えるときに必須です

最終音読みチェック

音符のカードを使って下記のように左から順番にカードを並べられるかやってもらいます。

●子どもへの説明の仕方

・「左から順番に1音ずつ上がっていくように並べてみよう」と言います。



それができたら、次は音の間違え探しです。先生がわざと間違ったカードの順番にして、正しい順番に並び替えてもらいます。

●子どもへの説明の仕方

・「次は音の間違え探しね。本当にきちんと並んでいるかな？正しい順番に並び替えてみよう」と言います。



この音の間違え探しができればもうきっちり音が覚えられている証拠なので、音符の読み方はいったん終了し、音のアルファベットを教えます。実際にスカラーの生徒（小学1年生の男子）で、1カ月で音符を覚えた子がいるので、もう音符の読み方は教えていません。

では、次はアルファベットの読み方についてお伝えしていきます。

音のアルファベットを覚える

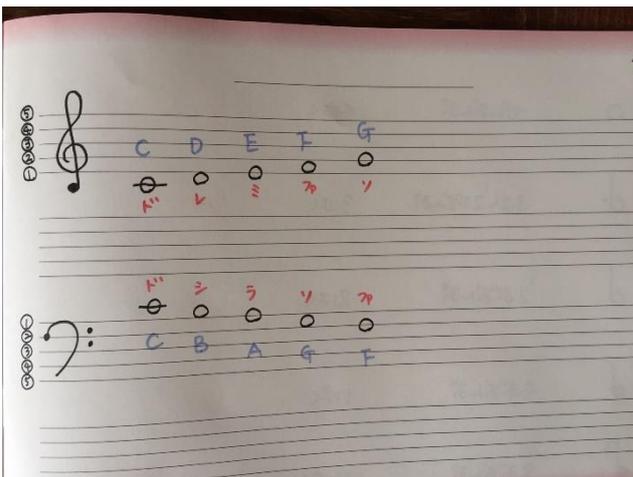
ご存知かと思いますが「ドレミファソラシド」というのはイタリア語です。

「プリマーA」に出てくる「CDEFGAB」というのは英語なんです。ちなみに日本語読みをすると「ハニホヘトイロハ」です。

こちらも音符カードを使って、

ト音記号・・・CDEFG、ヘ音記号・・・CBAGFを覚えさせます。

必要であれば音楽ノートに記入してあげてください。これも1カ月ほどあれば覚えられると思います。



最終音読みチェックとアルファベットが覚えられたら、「5オのリズムとソルフェージュ」に移っていきます（p26で説明しています）。

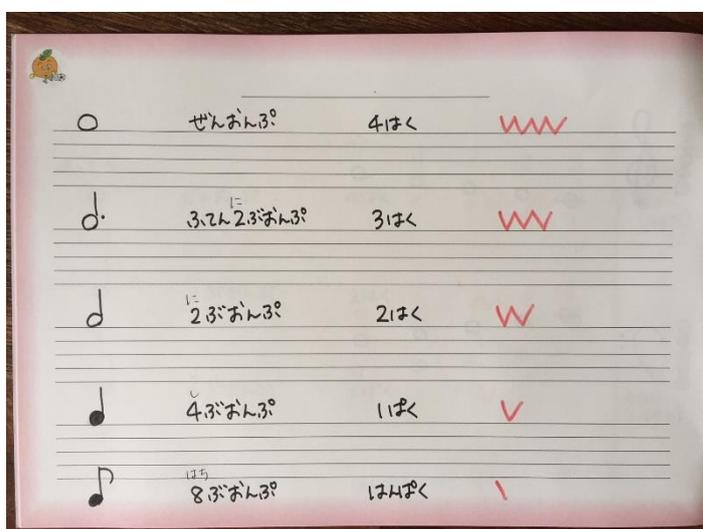
※アルファベットの読み方については現時点でそこまで必要なことではないので、できなくても次へ進んでいきます。

次はリズムのたたき方についてお伝えしていきますね(^-^)

Part3 リズムのたたき方指導実践（2カ月目～半年）

2カ月目の時点では、すでに下の図の音符がわかっていることがポイントです（まだ音符の長さの覚えがあやしい子は、初期のレッスンに戻るなどして一から教えてあげてください）。

2カ月目以降は、2種類のリズム（付点とシンコペーション）を覚えていき、それができたら、「5才のリズムとソルフェージュ」に移っていきます。



必要な道具



・「音符のつみき」

（リトミック研究会に所属していたときに購入。非売品。これに似た[音符のつみきはこちら](#)です。

付点のリズム

まずは付点のリズムです。

付点のリズムは今すぐテキストに出てくるわけではないのですが、初期の段階から感覚としてできている方がよい（リズムは理屈ではなくて感覚で覚える方が大事）ので、ここはテキストと切り離してリズムだけを教えていきます。



●子どもへの説明の仕方

・「4分音符に黒いチョボのようなマークがあるよね。これは付点のリズムっていうよ。まずはリズム唱でたたいてみようね。ターィティターでたたいてみよう」と言います。

・「今度は、ぞーおさん と言いながらたたいてみようね」と言います。リズム唱で言うのが難しくても、リズムを身近な言葉に当てはめてたたけば一発でできます。

・「上手にできたね。じゃあ次は拍数でたたいてみよう。いち にい さん でたたいてみようね」と言います。

※必ず先生がお手本を見せてからやらせてください。またこの段階では、付点4分音符＝1拍半」という説明は不要です。感覚でたたかせてください。

シンコペーションのリズム

次にシンコペーションのリズムです。このリズムも今すぐテキストに出てくるわけではないのですが、初期段階でやっておきます。



●子どもへの説明の仕方

・「このリズムはどうやってたたかかわかるかな？ティターティでたたいてみよう」と言います。

・「今度は、ひこーき」と言いながらたたいてみようね。真ん中の音符が長いんだよ」と言います。リズム唱で言うのが難しくても、**リズムを身近な言葉に当てはめれば一発でできます。**

・「上手にできたね。じゃあ次は拍数でたたいてみよう。いち にい でたたいてみようね」と言います。

※必ず先生が先にお手本を見せてからやらせてください。

これでリズム打ちは終了です。次は「5才のリズムとソルフェージュ」に移っていきましょう(^-^)

■ 「5才のリズムとソルフェージュ」について

ピアノを上手に弾くためには、弾く技術はもちろんのこと、リズム感や歌いながら弾くこともとっても大事になってきます。

そのリズム感や歌う心を育てていくのがこの本なのです。「5才・・・」とタイトルについていますが、ピアノを初めて習う子にはちょうど良いレベルの本なので、小学1年生であってもこの本から始めていきます。

この本は2つの目的があって、**リズム感をつけることと、ソルフェージュ力をつけること**なんです(ちなみにソルフェージュというのは、「楽譜を見てドレミで歌うこと」を言います)。

ソルフェージュって難しそうやなあと思われるかもしれませんが、「プリマ—A」で、さんざんピアノを弾きながら歌う練習をしていましたよね。それって**ソルフェージュの練習を兼ねたピアノ練習をしていた**んですよね。なので、歌いながらピアノが弾けるんですから、歌うだけなのでなんら難しいことではありません。

この本が1冊終わるころには、

- ・リズム感や歌う心が身に付くので、イキイキした演奏ができる
- ・音符を読むのが早くなるので、1曲を仕上げるスピードが早くなる

ようになっていると思います(*^~*)。

なのでソルフェージュの勉強はやっておいた方が良いのです。

では実際に使い方についてお話ししていきますね。

「5才のリズムとソルフェージュ」 →→



実際の使い方

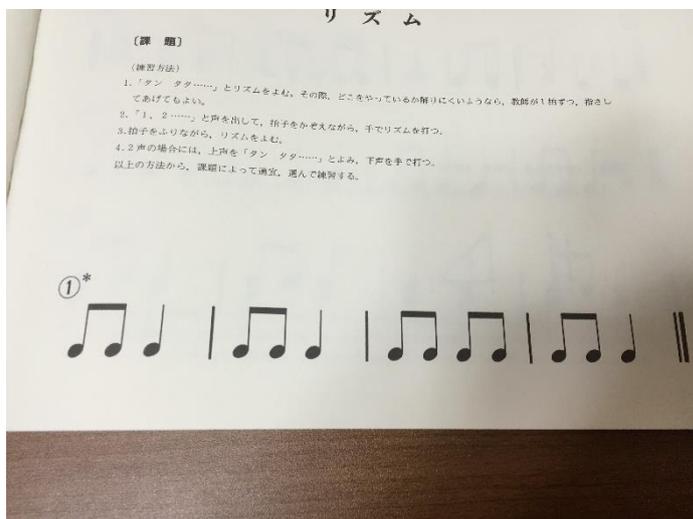
「5才のリズムとソルフェージュ」では、前半のページにリズム打ち、後半のページにソルフェージュが載っています。リズム打ちは音符を見て手拍子をし、ソルフェージュの方は先生のピアノ伴奏に合わせて子どもに歌ってもらいます。宿題は各3つずつ進めていくと良いでしょう。

リズム編

これが最初のページです。リズムを見て手拍子をします。※必ず先生がお手本を見せてからやってもらいましょう。

リズムは以下の順番でやってもらいます。

- ① **リズム唱**（ター ティティ ターアンを言いながらたたく）
- ② **拍数**（4/4拍子なら、1、2、3、4を言いながらたたく）

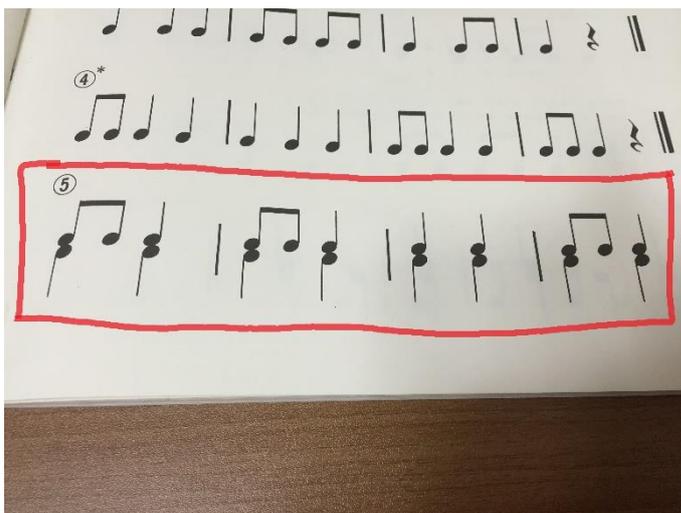


●子どもへの説明の仕方

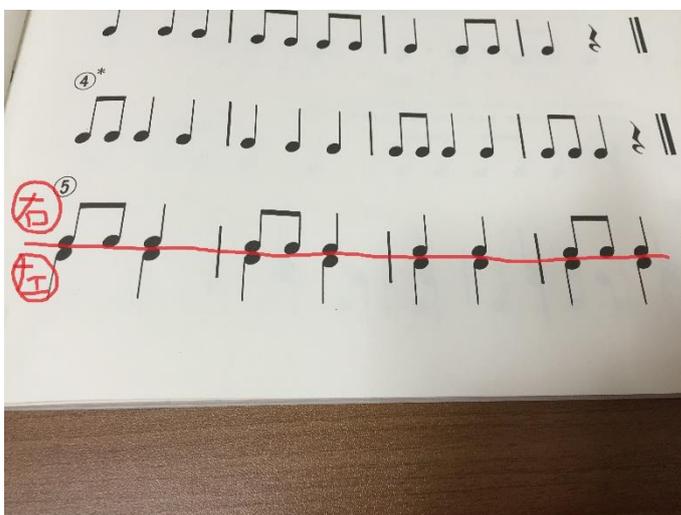
・「リズムをたたいていこうね。まずはリズム唱でたたいてみよう」と言います。

・「上手にたたけたね。次は拍数でたたいてみるよ。これは何拍あるかな？2拍あるね。じゃあいちにでたたいてみようね」と言います。

これは両手を使ってリズム打ちをします。



上の部分は右。下の部分は左で・・・



●子どもへの説明の仕方

・「このリズム打ちは両手を使ってやってみるよ。上の音符は右手。下の音符を左手でたたこうね」と言います。

・「まずはリズム唱でたたいてみよう。リズム唱は上の音符を言ってみよう」と言います。

・「上手にたたけたね。次は拍数でたたいてみるよ。これは何拍あるかな？ 2拍あるね。じゃあ いち に でたたいてみようね」と言います。

・「上手にたたけました」と言います。

リズムの参考動画

初心者さん用に作成した動画です。参考までに添付しました。
手拍子の動画。

※下記の動画をクリックしたら動画が見られます（3分程度）



次は両手のリズム打ちの動画です。

両手のリズム打ちは両手別々の動きになれるための練習です。

※下記の動画をクリックしたら動画が見られます（2分程度）



ソルフェージュ編

ソルフェージュはピアノ伴奏に合わせて子どもに歌ってもらいます。

伴奏づけは、「ドミソ・シレソ・ドファラ」の3種類ぐらいで適当に弾いています。

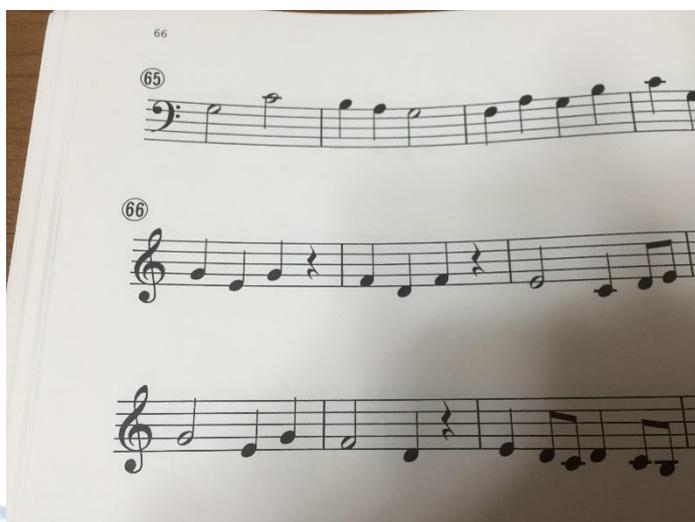
ソルフェージュは以下の順番で行ってもらいます。

- ① 1回目は先生と一緒に歌う
- ② 2回目は1人で歌う

ソルフェージュの最初のページはこちらです。



最後のページです。へ音記号も出てきますが、音域がそこまで広がらないので無理なく進めていけますよ。



ソルフェージュの参考動画

初心者さん用に作成した動画です。参考までに添付しました。

※下記の動画をクリックしたら動画が見られます（4分程度）



「5才のリズムとソルフェージュ」は終わる目安は、8カ月ぐらいです。

■おわりに

これで、第6章の「レッスン2カ月目～半年の内容」は終わりです。

この章で一番大事なのは、テキスト1冊だけのレッスンからテキストが3冊になり、新たにリズムとソルフェージュの本もやっていくということです。

繰り返しになるのですが、スカラーは「プリマーA」の途中から新しい2冊を追加しますが、この辺りから子どもによって進度が変わってくるので、「プリマーA」が1冊終わってからも全然遅くないのです。

「5才のリズムとソルフェージュ」の本も、2カ月目以降から始めていますが、こちらも半年から始めたって良いのです。

大事なのは、子どもがしっかり覚えていないのに、先生だけが焦って先へ先へとレッスンを進ませないことです。この辺りは実際に教えてみないとなんとも言えないところなので、教材の進め方はあくまで目安とっておいてくださいね。

2カ月目からのレッスンにおける先生の役目は、生徒が「何ができて、何ができていないのか」をしっかり見てあげることです。

その点を意識してレッスンを進めてください！

では、次は最後の章（第7章）「レッスン7カ月目～1年」をやっていきましょう。

■規約

このレポートの利用に際しては、以下の条件を遵守してください。

このレポートに含まれる一切の内容に関する著作権は、レポート作成者に帰属し、日本の著作権法や国際条約などで保護されています。

著作権法上、認められた場合を除き、著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部を、複製、転載、販売、その他の二次利用行為を行うことを禁じます。

これに違反する行為を行った場合には、関係法令に基づき、民事、刑事を問わず法的責任を負うことがあります。

レポート作成者は、このレポートの内容の正確性、安全性、有用性等について、一切の保証を与えるものではありません。また、このレポートに含まれる情報及び内容の利用によって、直接・間接的に生じた損害について一切の責任を負わないものとします。

このレポートの使用に当たっては、以上にご同意いただいた上、ご自身の責任のもとご活用いただきますようお願いいたします。

◆作成者 スカラー

◆特定商取引法に基づく表記 <http://loopline.shop-pro.jp/?mode=sk>